

令和 7 年

全国

一級河川の水質現況

Recent conditions of water quality of class A rivers in Japan

2025

令和 7 年水質調査結果

感覚的な水質指標による調査

水質事故等の状況

特集

13 年連続全国でトップクラスの清流

ご か せ が わ
五ヶ瀬川

「清流」から生まれた名産品

あらかわ
荒川 [北陸地方]

水質改善と観光振興

てんりゅうがわ
天竜川 [中部地方]

水質だより

からすがわ
烏川 [関東地方]



CONTENTS

DATA



科学的調査

令和 7 年水質調査結果

- 03 DATA 水質が最も良好な河川 2025
- 04 DATA 水質が最も良好な河川 2016-2025
- 05 DATA 過去 10 年間の水質改善状況
- 06 DATA 環境基準（BOD 等）の満足状況



感覚的な水質指標による調査



感覚的調査

- 08 後志利別川の水生生物調査
- 09 岩木川の水生生物調査
- 10 木津川の水生生物調査



水質事故調査

水質事故等の状況

- 11 DATA 水質事故等の状況

特集

- 13 13 年連続全国でトップクラスの清流

ごかせがわ
五ヶ瀬川



Column

- 15 「清流から生まれた名産品」



〔北陸地方〕

あらかわ
荒川

- 16 「水質改善と観光振興」



〔中部地方〕

てんりゅうがわ
天竜川

- 17 「水質だより」



〔関東地方〕

からすがわ
烏川



- 18 水難事故防止

ライシャネオン!



科学的調査

令和 7 年水質調査結果

公害問題が顕在化してきた昭和 40 年代以降、水質汚濁が進み、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が全国に多くありました。国土交通省が河川の水質について、年単位（1 月～12 月）でのとりまとめを始めた昭和 46 年当時、BOD 平均値が 5.0mg/ℓを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川の全調査地点の 27%を占めていました。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に良くなっています。例えば、昭和 40 年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚れた河川でした。昭和 50 年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が良くなり、近年では、大量のアユが毎年遡上するまでになっています。また、綾瀬川や大和川は、昭和 40 年代の都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD 値が 30mg/ℓを超えていましたが、水質改善の取組により確実に良くなりました。特に大和川では、令和 7 年の代表地点の BOD75% 値が 1.5mg/ℓとなり、アユの遡上も確認されるようになっています。

こうした水質改善の背景には、排水規制や下水道整備のみならず、各地域や家庭での生活排水の汚れを減らす取組や、流域でのクリーン活動等の啓発活動といった、流域の人々の様々な活動があります。これからも水質を維持・改善していくためには、このような各地域における努力を持続・発展させることが重要です。

昭和 42 年

現在の様子（令和 7 年度）

大和川（西除川合流点）



科学的調査

THE BEST 13 河川



各河川の水質の特徴はこちら

水質が最も良好な河川 2025

令和 7 年の平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川は以下のとおりです。

BOD 値による河川の水質状況（水質が最も良好な河川）

地方名	河川名			調査地点の都道府県名
北海道	後志利別川	シリベシトシベツガワ	後志利別川水系	北海道
北海道	渚滑川	ショコツガワ	渚滑川水系	北海道
北海道	沙流川	サルガワ	沙流川水系	北海道
北海道	札内川	サツナイガワ	十勝川水系	北海道
東北	荒川	アラカワ	阿武隈川水系	福島県
中部	宮川	ミヤガワ	宮川水系	三重県
近畿	北川	キタガワ	北川水系	福井県
中国	小鴨川	オガモガワ	天神川水系	鳥取県
中国	高津川	タカツガワ	高津川水系	島根県
中国	天神川	テンジンガワ	天神川水系	鳥取県
四国	仁淀川	ニヨドガワ	仁淀川水系	高知県
九州	川辺川	カワベガワ	球磨川水系	熊本県
九州	五ヶ瀬川	ゴカセガワ	五ヶ瀬川水系	宮崎県

【「水質が最も良好な河川」の定義】

対象河川である 160 河川のうち、以下の両方を満たす河川。

- 対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が $0.5\text{mg}/\ell$ ※1
- 対象河川の各調査地点の BOD75% 値 ※2 について、全調査地点で平均をとった値が $0.5\text{mg}/\ell$

※1：環境省の定める BOD の報告下限値（ $0.5\text{mg}/\ell$ ）

※2：測定データを値が小さい（水質が良好）方から並べ、 $0.75 \times$ データ数番目（整数ではない場合は切り上げ）の値（例えば、BOD を毎月 1 回測定していた場合、水質の良い方（値の小さい方）から数えて $0.75 \times 12 = 9$ 番目の値が 75% 値となります。）

<対象河川>

- 一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
- 一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。



科学的調査

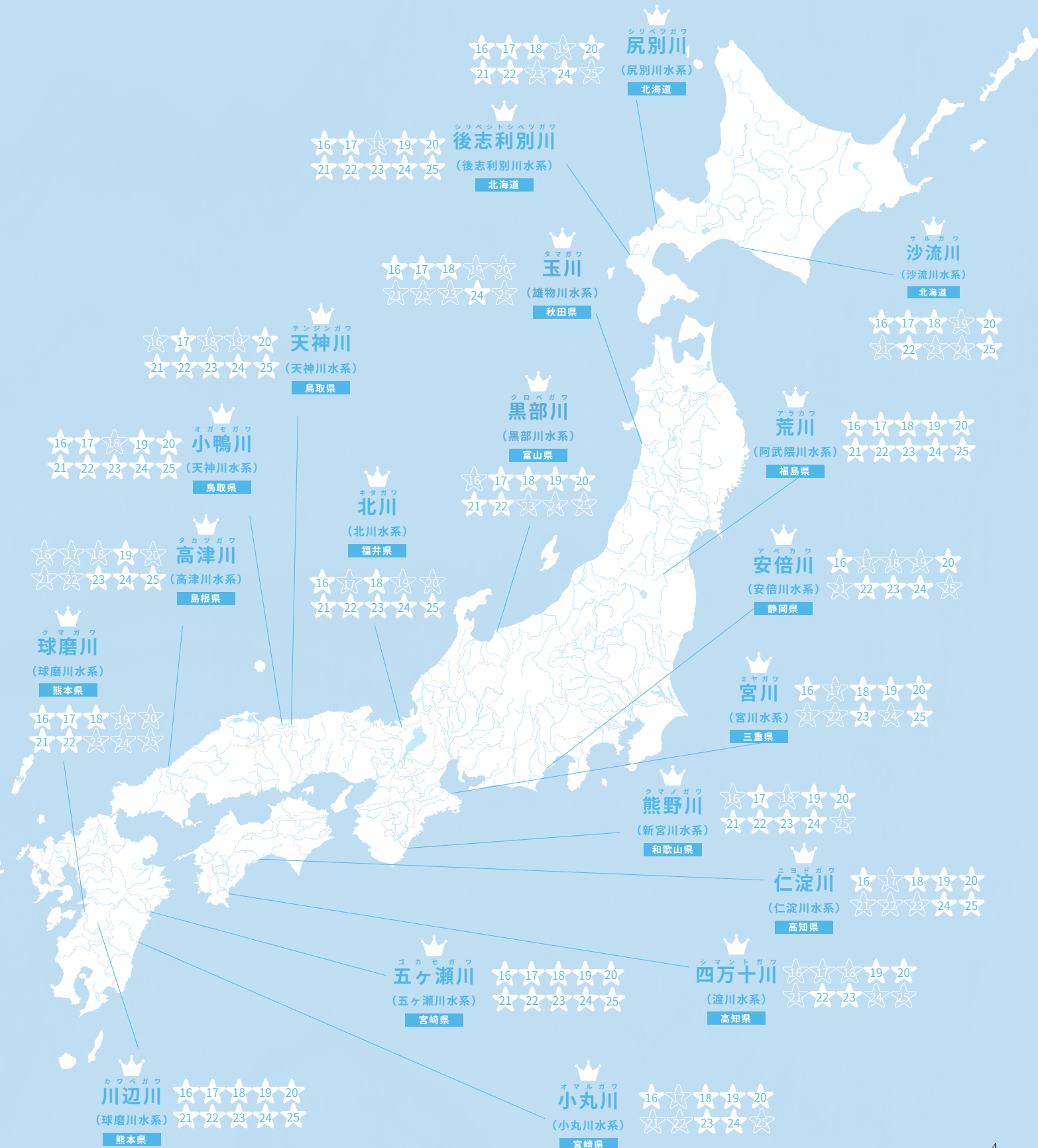
水質が最も良好な河川

2016 - 2025

星印：「水質が最も良好な河川」となった年
(西暦下2桁)

平成 28- 令和 7 年水質調査結果

2016-2025 年 (平成 28- 令和 7 年) の 10 年で、
4 回以上「水質が最も良好な河川」となった河川 (19 河川) を紹介します





科学的調査

TOP
5

過去 10 年間の水質改善状況

過去 10 年間に BOD 値が大幅に改善されている地点は以下のとおりです。

BOD 平均値の改善幅による過去 10 年間の水質改善状況

順位	地方名／地点名 (水系名河川名)	平成 27 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	令和 7 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿 ^{トクラ} ／利倉 (^{ヨドガワ} 淀川水系 / ^{イナガワ} 猪名川)	6.0	2.5	3.5
2	北陸 ^{アサヒバシ} ／旭橋 (^{シナノガワ} 信濃川水系 / ^{シナノガワ} 信濃川)	2.8	0.7	2.1
3	近畿 ^{ウチカワリュウマツ} ／内川流末 (^{ヨドガワ} 淀川水系 / ^{ウチカワ} 内川)	3.0	1.1	1.9
4	北海道 ^{ミドリバシ} ／緑橋 (^{イシカリガワ} 石狩川水系 / ^{ウシュベツガワ} 牛朱別川)	2.1	0.8	1.3
5	北海道 ^{オヤフルサンセンキタガワチサキ} ／生振 3 線北側地先 (^{イシカリガワ} 石狩川水系 / ^{バラトガワ} 茨戸川)	3.5	2.4	1.1
5	関東 ^{ヤスジガワ} ／八筋川 (^{トネガワ} 利根川水系 / ^{ヨコトネガワ} 横利根川)	3.9	2.8	1.1
5	近畿 ^{キノカワオオハシ} ／紀の川大橋 (^{キノカワ} 紀の川水系 / ^{キノカワ} 紀の川)	1.9	0.8	1.1

令和 7 年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD 値）と、平成 27 年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD 値）から、10 年間の直轄管理区間の水質改善幅による地点の水質改善状況を比較すると、上記上位 7 地点で大幅な水質改善が進んでいます。

また、上記上位 7 地点以外にも、様々な取組等により、全国的にきれいな川、生物が生息しやすい川などをめざして水質や水環境の改善が多面的に取り組まれています。

こうした水質を改善する取組を地域づくりや観光振興とあわせて実施している河川として、[天竜川（中部地方）（P.16）](#)や[烏川（関東地方）（P.17）](#)の事例を掲載しています。



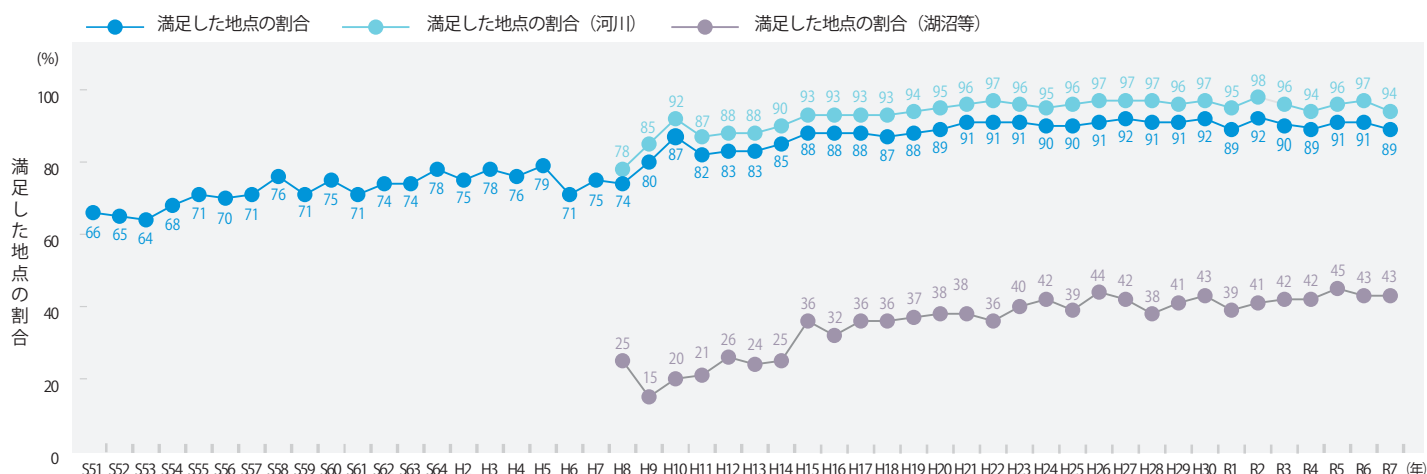
科学的調査

89%

環境基準（BOD 等）の満足状況

BOD※¹（または COD※²）値が環境基準を満足した地点の割合は 89%でした。

【生活環境の保全に関する環境基準】



一級河川（湖沼及び海域を含む）において環境基準を満足した地点の割合

令和 7 年に、一級河川（湖沼及び海域を含む。）の直轄管理区間において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）または、COD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足した地点の割合は 89%（881 地点 / 990 地点）で、依然として高い割合を維持しています。

なお、令和 7 年に BOD（または COD）値が環境基準を満足した地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは 94%（837 地点 / 887 地点）、湖沼等（海域含む）※³では 43%（44 地点 / 103 地点）でした。

※¹ BOD（生物化学的酸素要求量）： 河川の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のことで、BOD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

※² COD（化学的酸素要求量）： 湖沼や海域の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、COD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

※³ 河川・湖沼別の環境基準を満足した地点の割合は平成 8 年より整理（平成 26 年以降は海域も含む）

【ダイオキシン類】

令和 7 年度における、ダイオキシン類が水質環境基準を満足した地点の割合は 93%（158 地点 / 170 地点）でした。

【人の健康の保護に関する環境基準】

令和 7 年における、直轄管理区間の健康項目全体の環境基準を満足した割合は 99.5%（855 地点 / 859 地点）となっており、ほとんどの地点で環境基準を満足しました。



感覚的な水質指標による調査

国土交通省では、河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するために、調査の一部を住民と河川管理者との協働で実施しています。
普段親しんでいる身近な川で、ごみの量や水のにおいなどを実際に体感することで評価しています。

河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するための指標について検討し、「今後の河川水質管理の指標について(案)」を平成 17 年 3 月にとりまとめました^{注1)}。このうち、「感覚的な水質指標^{注2)}」による調査では、調査の一部を住民と河川管理者との協働により平成 17 年から実施しており、普段親しんでいる身近な川で、ごみの量や水のにおいなどを実際に体感することで評価しています^{注3)}。住民との協働による水質調査は、住民の川に対する意識の向上(情報提供を含む)、河川水質の情報収集、住民の主體的な行動を引き出すことなどにより、川の改善を目指すことをねらいとしています。

注1 平成 21 年 3 月に一部改訂し、平成 21 年度の調査より適用しています。

注2 「今後の河川水質管理の指標」のうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」に関する調査では、ごみの量や水のにおいなどを実際に体感することで評価する項目が含まれていることから、「感覚的な水質指標」として紹介しています。

注3 評価項目ごとに A～D ランクの 4 段階の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとし、1 年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻出ランクを、その地点における年間の総合評価ランクとします。最頻出ランクが 2 つ以上ある場合は、低い方のランクを年間の総合評価ランクとします。

「感覚的な水質指標による調査」は、これまで多くの水系で実施され、子供たちをはじめ、多くの方々が参加しています。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、全国的に調査中止あるいは規模縮小を余儀なくされた時期もありましたが、長年調査を実施する中で、河川ごとに調査内容や方法も多様化しています。

ここでは、2025 年に実施した調査をご紹介します。

なお、住民参加による水質調査の詳しい実施状況は、【詳細版】令和 7 年全国一級河川の水質現況 第二章 河川の水質現況 4. 住民参加による水質調査をご覧ください。

参加者数が多い調査地点(上位 7 地点)

順位	都道府県	河川名(水系名)/調査地点	参加者数
1	北海道	札内川(十勝川水系)/札内橋下流	792
2	大阪府	大和川(大和川水系)/河内橋	388
3	香川県	土器川(土器川水系)/平成大橋	382
4	兵庫県	猪名川(淀川水系)/池田床固下流	225
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/若松橋	223
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/叶橋下流左岸	223
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/林友橋	223

※表中の参加者数は、年間を通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。

また同一団体が複数箇所調査を実施した調査地点がある。

後志利別川の水生生物調査

後志利別川水系
しりべしとしべつがわ
\\ 後志利別川 //
(北海道)

函館開発建設部今金河川事務所では、日本有数の清流に触れ、川に親しんでもらうため、上流部、中流部、下流部の各小学校の児童を対象に、後志利別川に生息する水生生物の採取や簡易的な水質調査を実施しました。

タモ網を使用して水生生物を採取し、指標生物との比較により水質判定を行う調査、併せて、簡易な水質測定器具を使った水素イオン濃度（水の酸性・アルカリ性を示す値）などの測定も行いました。

令和7年は、7月7日、7月9日、7月11日に後志利別川流域のせたな町、今金町の3つの小学校計62人の児童が体験し、後志利別川が「きれい」な川であることがわかりました。



水難事故防止に関する説明



パックテストを用いた簡易水質調査



タモ網を使って水中の生き物を採集



採集した魚を観察

岩木川の水生生物調査

岩木川水系 いわきがわ 「岩木川」 (青森県)

青森河川国道事務所では、令和7年7月11日に弘前市立大成小学校の児童（4学年41名）とともに、水生生物調査を行いました。また川で安全に気をつけながら楽しく遊んで欲しいとの思いを込めた学習会も同時に開催しました。学習会では川の中での調査のため、ライフジャケット着用の大切さなど、川で楽しく遊ぶための知識を深めました。学習会後、岩木川に入り、きれいな水に生息するカワゲラ類やヘビトンボなどの水生生物を採集しました。

大成小学校の岩木川での調査は、令和6年度に公益社団法人 日本水環境学会 東北支部が主催する「東北・水すまし賞」を受賞しています。この賞は次代の環境を担う若い人たちの環境活動を支援する目的で東北地方において水環境保全に関わる優れた活動または研究を表彰する制度です。



「うんこドリル川の安全」を使った学習会



パックテストによる簡易水質検査



採取した生き物を観察



石の裏にいる生き物を搜索



地元の小学生140人と実施!!

木津川の水生生物調査



地域の子供たちの自然とのふれあいと身近な環境問題への関心を高めることを目的として、木津川上流河川事務所では、毎年水生生物調査を実施しており、令和7年で31回目となりました。

令和7年の調査は、7月21日に木津川上流部の稲広橋で一般参加者140名、7月24日に上野生涯学習推進会議および木津川上流河川事務所職員12名による計2回が行われました。

稲広橋では、親子と一緒に川と生き物とのふれあいを楽しみながらの調査が行われ、ヒラタカゲロウ類やサワガニなどきれいな川にしか生息しない水生生物が確認でき、木津川はきれいな水（水質階級Ⅰ）であることがわかりました。

参加者からは、「水質測定の方法がわかりやすく、簡単に学べて子供にとってもよい勉強になったと思います」、「4年間とれなかった魚が捕れてとてもうれしかった」といった感想がありました。



木津川上流河川事務所の職員による生き物の説明



川の中に入り、水生生物を採集します



採集した生き物について確認します



採集した魚類（カワムツなど）

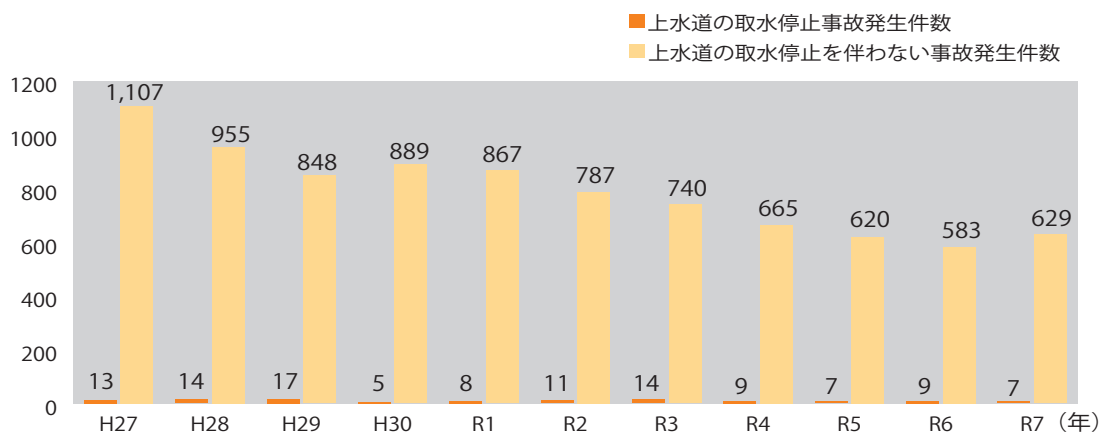


水質事故等の状況

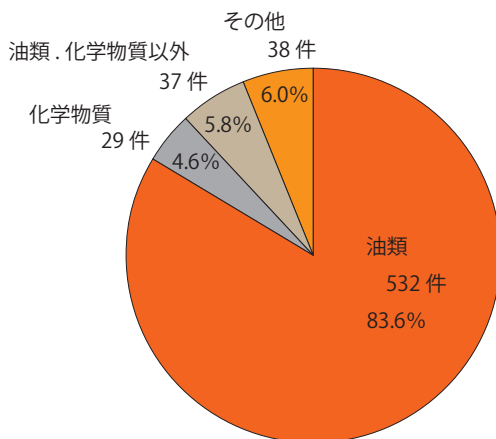
令和 7 年の水質事故の発生件数は 636 件で、長期的には減少傾向にあります。

令和 7 年は令和 6 年と比べ 44 件増加しましたが、水質事故の発生件数は、長期的には減少傾向にあります。事故の内容を原因物質別にみると、油類の流出が全体の約 8 割を占めています。

一級水系においては、水質事故発生時には、河川管理者、利水者、その他関係行政機関等により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、速やかに情報の収集、通報・連絡を行うとともに、関係機関と連携のもとにオイルフェンスを設置するなど、被害の拡大防止に努めています。



水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移



合計 636 件（自然現象 16 件を除く）

水質事故の内容（原因物質別）



不法投棄による油流出事故

（写真：関東地方整備局 江戸川河川事務所）



水質事故調査

水質事故を防ぐために

水質事故は油類や化学物質によるものがあり、工場で使用される機械の故障・操作ミスや、交通事故、ごみの不法投棄などによって発生します。

ひとたび油類や化学物質が河川へ流出してしまうと、魚などの水生生物に影響を与えるだけでなく、規模によっては河川からの水道用水等の取水が制限されるなど、広範囲にわたって市民生活に重大な影響を及ぼすおそれがあります。

そのため水質事故発生時には、「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて速やかに通報・連絡・情報収集を行うとともに被害の拡大を防止できるよう、日頃から関係機関と共同で訓練等を実施しています。

事例

中国地方整備局での事例

千代川水系水質汚濁防止連絡協議会では、河川等で油類流出等の水質事故が発生した場合、魚類等の河川環境または周辺住民に対する被害及び影響が広範囲に及ぶ場合が考えられるため、日頃から水質事故に対する意識の高揚と事故対策技術の鍛錬が必要不可欠であり、事故現場で迅速かつ的確な対策を行い、被害の拡散を防ぐことができるよう訓練を行っています。

令和7年には11月5日に鳥取市の摩尼川で関係機関の協力のもとに油流出事故を想定した現地対策訓練を行っており、関係機関との連携を深めました。



オイルフェンスを設置し油類を回収する訓練

(写真提供：中国地方整備局)

四国地方整備局での事例

松山河川国道事務所では、水質を良好に保つことや水質事故発生時に迅速な対応を行うために、重信川水系水質汚濁防止連絡協議会を設置し、関係機関との緊密な連絡体制を構築しています。

重信川水系の水質事故対策における技術の向上を目的として、令和7年11月14日に重信川水系の石手川で対策技術訓練及び専門家による油流出事故対策資材の使用法講習会を行いました。講習会では「交通事故により石手川に転落した軽自動車からのガソリン等の流出」などの具体的な発生源を提示しその対策について訓練しています。



油流出事故対策資材の使用法の講習

(写真提供：四国地方整備局)

特集

13 年連続全国でトップクラスの清流

五ヶ瀬川

[五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川（宮崎県・大分県・熊本県）]



写真提供 九州地方整備局 延岡河川国道事務所

自然環境や景観に優れた五ヶ瀬川

五ヶ瀬川は、向坂山（標高 1,684 m）に源を発する流域面積 1,820km²、幹川流路延長 106km の一級河川です。宮崎県北部のほぼ全域が流域となっており、この地域における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、豊かな水量と自然環境を利用した観光や工業が発展しています。

13 年連続で「水質が最も良好な河川^{*1}」となった五ヶ瀬川は、季節になると大型アユを求めて多くの釣り人で賑い、高千穂峡など風光明媚な自然景観や、300 年以上の歴史をもつ九州最大規模の「鮎やな」などが、五ヶ瀬川流域の大きな観光資源となっています。

現在の五ヶ瀬川は、下流部で大瀬川と分かれ、それぞれ日向灘に流れていますが、以前は河口部付近で再び合流する複雑な流路を形成していたことから、延岡市街地は度重なる洪水を受けました。この洪水被害を少なくすることを目的として、五ヶ瀬川と大瀬川の適切な分派対策、洪水時における五ヶ瀬川での堰上げ防止対策（隔流堤の設置）、大瀬川の河口閉塞の解消が行われました。

また、延岡市街地から五ヶ瀬川の下流に向かって歩くと、全国でも珍しい「昼堤」が見られます。昼堤とは、コンクリート製の枠に昼をはめ込んで浸水被害を防ぐ仕組みを持った堤防で、大正から昭和の初期にかけて造られました。これは先人の治水対策の知恵で、住民が協力してまちを守ったシンボルとなっています。

※ 1:「水質が最も良好な河川」の定義は、本資料の 3 ページ目に記載。



隔流堤による堰上げ防止対策



延岡のまちを守った昼堤



九州最大規模の鮎やな

天孫降臨の地 ～高千穂～

高千穂峡の代名詞ともいえる真名井の滝は、天孫降臨^{*2}の際、水のなかった高千穂に天村雲命が水種を移した「天真名井」が水源となり、滝となって流れ落ちているとされています。

この天真名井は、かつては豊富な水量が湧きだし、生活用水や醸造酒用の水として利用されていましたが、河川改修が行われた昭和 40 年代以降、湧水が減少し、現在では、上流側に位置する白水水神の湧水から補給している状況にあります。

「水循環の復活」をキーワードに、宮崎県と高千穂町との連携のもと、地域の人びとが川とともに生きることの喜びを取り戻し、この地域を訪れる人びとと日本文化の原風景の体験を共有できるように、神代川かわまちづくりが行われています。



天真名井



神代川かわまちづくり

※ 2: 天孫降臨とは、皇室の御先祖が高天原から天降り、この国を豊かにそして平和に治められていく様子を語り伝えるものです。

五ヶ瀬川を次世代につなぐ取組

清流 五ヶ瀬川を後世に引き継ぐため、五ヶ瀬川流域全体で様々な取組が行われています。

友内川自然再生への取組

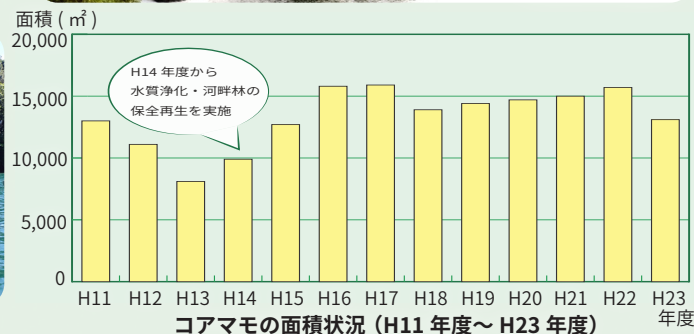
友内川は、五ヶ瀬川水系の支川北川から分かれ、再び北川に合流する河川です。絶滅危惧種であるアカメ（魚類）が生息し、この稚魚の成長に不可欠なコアマモが分布するなど、良好な自然環境が形成されています。

平成 11 年ごろ、生活排水等による水質悪化によりコアマモが減少したことから、延岡河川国道事務所では、平成 14 年度からアカメやコアマモなど多様な動植物の保全を目的とした水質浄化・河畔林の保全再生などを実施しました。水質浄化対策として、地域住民や漁協と連携しながら竹炭やシジミを用いた水質浄化施設を設置しました。この施設の設置と併せて、清掃活動、環境学習会を開催した結果、地域住民の意識が高まり、生活排水の水質が良くなることで、コアマモが増加し、アカメの個体数も改善されました。

水質が改善された後も、友内川にある資料館「リバーパル五ヶ瀬川」では、子どもたちや地域住民の河川や水質に関する意識を醸成するため、定期的に自然観察などの環境学習のイベントを開催しており、令和 6 年度は約 6,000 人もの人々が訪れています。



地理院タイル（電子国土基本図（オルソ画像）（2007 年以降））を加工して作成



写真提供：リバーパル五ヶ瀬川

五ヶ瀬川かわまちづくり 天下一の川づくり、まちづくりを目指す！

自然豊かで貴重なオープンスペースである五ヶ瀬川の河川敷では、多くの市民の方々に活用してもらえるように、遊歩道や多目的広場、親水護岸等を整備する「五ヶ瀬川かわまちづくり」が行われています。さらに、地域住民、延岡市、関係機関により組織された「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」によって、地域の活性化や地域交流の促進、河川空間利用者の安全性向上を目的として、それぞれの活動拠点の特徴を活かしたイベントが実施されています。これらの活動が評価され、令和 2 年度には模範となる先進的な取組として、九州地方整備局では初めてとなる「かわまち大賞」を受賞しました。

令和 7 年度には 4 つ目の拠点となる「おうせ・せせらぎ憩いの水辺」において、「つねとみ 恒富おうせ・せせらぎ公園」が完成しました。令和 7 年 10 月 19 日には完成イベントが行われ、今後の新たなにぎわいの場となることが期待されます。



五ヶ瀬川流域治水バスツアー（川の喜怒哀楽ツアー）

延岡河川国道事務所では、宮崎大学と連携して五ヶ瀬川流域内の中学校などの教育機関を対象としたバスツアーを開催しています。上下流の水害の歴史（畳堤）や多自然川づくり実施箇所（神代川）などの現地を訪れて体験し、流域内の課題を知った上で、ワークショップを行い、自分なりに解決策を考え、行動に移すきっかけづくりを行っています。



Made in "Clear Water"



「清流」から生まれた
名産品

〔北陸地方〕

あらかわ

荒川

荒川水系

北陸北端の清流 荒川

荒川は山形県西置賜郡の大朝日岳（標高 1,870m）を源に小国盆地を経て新潟県へ入り、各支川と合流しつつ越後平野北端を流れ日本海へ注ぐ、幹川流路延長 73 km・流域面積 1,150 km² の一級河川です。

荒川流域の上流に位置する山形県内では、農林業と合わせて水資源開発による鮎工業が発展しており、下流の新潟県内は水稻を中心とした農業地帯で、雲母、高瀬といった温泉郷があります。

銘柄米「岩船米コシヒカリ」

荒川流域には、荒川頭首工で取り込んだ水を使っている水田が広がっています。これらの水田で生産されるお米は、「岩船米コシヒカリ」と呼ばれています。魚沼米や佐渡米とともに新潟の一般的なコシヒカリとは別に区分されて流通しており、おいしいお米と評価されています。



コシヒカリを栽培している田んぼ

荒川で育まれたしいたけ

荒川流域にある関川村は新潟県内有数のしいたけの産地です。澄んだ空気と清らかな荒川の流れて育まれた「しいたけ」は、肉厚でうま味が濃厚で、県外にも出荷され好評を受けています。



しいたけ

地元の資源となっているサケ・カジカ

荒川では、かつてサケを年貢として扱うほど、サケの価値が重要視されていました。現在もサケやアユ、カジカなどを対象とした内水面漁業も盛んに行われており、地元の資源として根付いています。

水辺ではささ舟によるサケのいぐり網漁、アユ釣りや箱眼鏡を用いたカジカ取りが荒川の風物詩となっており、河川敷には荒川ゴルフ場が設けられるなど、余暇の過ごし方が多様化する中で、新たな河川空間の利用が進んでいます。

村上市の郷土料理である「鮭の焼漬け」は新潟県独特の切り方「もち切り」で切り分け、白焼きしたサケを熱いうちに醤油だれで漬け込んだものです。煮付けとは異なる風味を楽しめます。



水辺の楽校

鮭の焼漬け

出典：農林水産省「うちの郷土料理」

大したもん蛇まつり

関川村の一大イベント「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」では村民が竹とワラで作った世界一長い蛇（長さ 82.8 m、重さ 2 t）を用いて、村の伝統と自然の脅威に立ち向かう人々の力を伝える行事です。この長さ「82.8m」は昭和 42 年 8 月 28 日の羽越大水害の惨事を忘れることなく次代へ引き継ぐことを目的に定められています。



村役場の前でとぐろを巻く大蛇



橋梁を渡る大蛇の様子

水質改善と観光振興



【中部地方】

てんりゅうがわ
天竜川

天竜川水系



日本の真ん中の暴れ川 天竜川

天竜川は、長野県茅野市の八ヶ岳連峰に位置する赤岳（標高 2,899m）を源とし、諏訪盆地の水を一旦諏訪湖に集め、西に中央アルプス、東に南アルプスに挟まれた伊那谷を経て山岳地帯や遠州平野を流下し、遠州灘に注ぐ、幹川流路延長 213km、流域面積 5,090km² の一級河川です。

天竜川の上流域は、中央アルプス、南アルプスの豊富な水を利用した農業が行われ、諏訪湖・伊那市周辺では精密機械産業が発達し、下流域は浜松市を中心に自動車産業や楽器産業などわが国を代表するものづくり地域となっています。

諏訪湖の水質改善

諏訪湖周辺における昭和 30 年代後半からの産業の発展や都市化に伴う富栄養化により発生したアオコが天竜川に流下したため、天竜川の水質が悪化していました。このため、昭和 44 年に諏訪湖の底泥から溶出する栄養塩を削減する湖内浚渫事業を実施し、昭和 46 年には諏訪湖流域下水道の整備が行われました。加えて水草除去による栄養塩類の直接除去、植生水路の設置による栄養塩類の湖内流入防止や覆砂等の浄化対策が行われたことで、現在では天竜川上流域の水質は改善しています。

諏訪湖



水生昆虫「ザザムシ」

天竜川の上伊那地域では「ザザムシ」という水生昆虫を佃煮等にし、酒の肴として食べられるなど庶民の味として親しまれています。

ザザムシはカワゲラ・トビケラなど水生昆虫の総称ですが、昭和時代においては多くの漁師がカワゲラをザザムシと考えていました。

高度経済成長期の水質悪化でカワゲラが減少した際には、ヒゲナガカワトビケラがざざ虫漁（無形民俗文化財に令和 7 年 10 月 30 日付指定）の対象となるなど「ザザムシ」を表す昆虫は変化しました。現在は水質が改善しカワゲラの数が増えていますが、ヒゲナガカワトビケラの脂ののった独特な味に加え、処理に手間がかからないことが好まれざざ虫漁の主体となっています。

飯田市にある天竜川総合学習館「かわらんべ」で実施している「かわらんべ講座」では、ザザムシについての学習や調理して食べる体験講座も実施しています。

ザザムシの佃煮



かわらんべ講座でのザザムシ調理の様子

（写真提供：天竜川総合学習館
かわらんべホームページ）



ざざ虫漁



水質だより

【関東地方】
からすがわ

烏川

利根川水系

いつの世でも、人々の集う憩いの川 烏川

烏川は、群馬県高崎市倉沢町の鼻曲山（標高 1,654m）にその源を発し、榛名山と碓氷丘陵の斜面境を流れ、碓氷川、鐺川、神流川と合流してから利根川本川に一次支川として合流する流路延長 61.8km で、流域面積は 470km² の一級河川です。

烏川流域は、主に南東部の交通網が発達した都市機能と、北西部の山間地における緑豊かな自然環境を併せ持つ地域です。

沿川の小中学校との調査

烏川では、沿川小中学生とともに住民との協働による水質測定および水生生物調査を行っています。高崎市新町地先にて令和 7 年 5 月に行われた調査では、約 50 人の小学 4 年生たちが川の中で水生生物を採取し、生物の分類や水質分析調査を行いました。

総合的な調査結果は「Ⅱ ややきれいな水」でしたが、「Ⅰ きれいな水」に分類されるカワゲラ類やヒラタカゲロウ類も採取され、烏川のゆたかな水環境を再認識することができました。

地域住民との協働による河川管理

高崎河川国道事務所では「烏・神流川クリーン作戦」など地域ボランティアの方々や河川敷を利用するスポーツ団体の方々との協力してゴミ回収を行い、美しい河川環境づくりを実現しています。

さらに「アダプトプログラム」により美化活動を行う団体を支援するため、河川管理者と地域の市町村及び活動団体の三者で協定を締結しています。

ボランティアによる 河川敷での美化活動



地元の学生による
河川敷での美化活動

高松地区かわまちづくり

高崎市では白衣大観音や榛名山などの眺望を楽しめる場所や、水辺の雰囲気を楽しむ市民の憩いの場として、景観を活かした水辺空間を積極的に活用するため、「高松地区かわまちづくり」基本構想を策定し取り組んでいます。民間事業者と連携したオープンカフェや展望レストハウス等の整備を実施予定です。

国土交通省では、河川管理用通路や階段護岸、緩傾斜坂路などの整備を令和 2 年度までに行いました。



高松地区で行われているラフェスタ烏川の様子



水生生物調査で石の裏にいる
生き物を探している小学生



カワゲラ類



ヒラタカゲロウ類

岩倉橋付近で採取された「Ⅰ きれいな水」に生息する生き物

ベルトを締め、体をフィットさせることで脱げにくくなる。

水難事故防止

ライフジャケット・オン!



ライフジャケット・オン・スタイル

股下ベルトがある(子ども用)

水面でも呼吸ができるようにする。

ライフジャケット

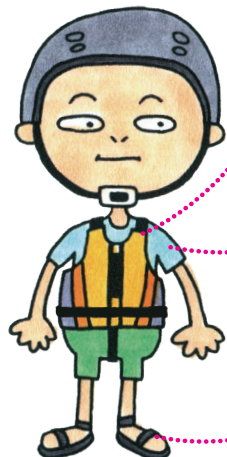
体温を奪われないようにする。

乾きやすい服装(水着など)



足を守る。脱げないようにする。

運動靴など



水抜き穴がある



大切な頭を守る。
ヘルメット(あれば)

川は楽しい場所ですがリスクもあります。川に入らなくても川岸で足を滑らせて転落することもあります。川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着ていれば防げた可能性があります。

川で子どもを事故に遭わせないために、そして自分も事故に遭わないように、子どもも大人もライフジャケットを着用する必要があります。

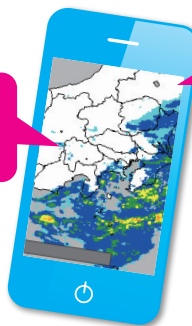


だるまキャラの「山田るま」ちゃんが、ライフジャケットを着て「川田るま」に変身!

川で遊ぶ時は、まずチェック!

川の防災情報

提供
国土交通省



左の画面は、東京近郊のレーダー雨量画面です。国土交通省では川の防災情報を携帯電話向けに情報提供しています。



川のリアルタイムな情報をチェック!

川に着いたらレーダー雨量や水位を確認しよう!

CHECK

① 川に行く前にチェック!

- 必ず天気や川の情報をチェックしよう。急な雨で、川が増水することもあるぞ!
- バーベキューやキャンプなどでも川に近づく場合はライフジャケットを用意しよう!(大人も子どもも)



② 川に着いたら安全も確認!

- 川に関する看板があれば確認しよう。
- 大人も子どももライフジャケットを着用し、子どもから目をはなさないように。(堰付近は川遊びにはケン・近づかない!)
- 川のリアルタイムな情報を確認し、上流の状況について把握しよう。

携帯端末で川のリアルタイムな情報を確認しよう!

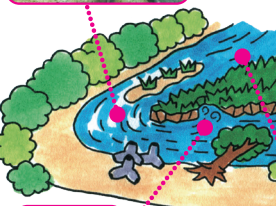


③ 表面は穏やかでも水中は注意!

- 川には流れがあり、常に変化しているぞ!
- 一見穏やかに見えても、急に深くなる所や、滑りやすい所があるぞ!
- 川の事故の約90%は、穏やかな流れや浅瀬で発生しているぞ!



浅瀬に見えても...中は激流!



穏やかな流れの中は、渦を巻いていることも!

川底は滑りやすかったり石につまづいて転びやすい



穏やかな流れに見えても...急に深くなる!滑りやすい!



④ こんな場所は急な増水に注意!

- 河原は、増水の際は川底になるぞ。特に中州にいと、増水したら取り残されるぞ!



平常水位

増水時

川原に草が生えていない所は、増水時に水が流れていることの「証」

⑤ すぐに避難!

- 増水の前ぶれや、警報が鳴ったら直ちに避難しよう!すぐに水位が上がってくるぞ!
- パトロールの人たちや警察・消防、河川管理者の注意には必ず従おう。



増水の前ぶれはこんな時!

- 山鳴り(山全体がうなるような音)がする。
- 水かさが増え、濁ったり、流木、落ち葉が流れてくる。
- 雨が降っているのに、水かさが減っている。
- 腐った土・火薬のようなにおいがする。



※もし誰かが流されたら、浮くもの等を投げよう(子どもは大人を呼ぼう!)。救助する大人が事故に合わないよう、大人もライフジャケットを!



ミズベリング・プロジェクトとは

かつての賑いを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。
水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑いを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。

**水辺のアクションがもっと増えれば、
みんなのまちはもっともっと輝くはずだ。**

なにやら、全国の水辺が、ゆるゆると元気になってきた。
カフェやテラスができたり、巨大アヒルが浮かんでいたり。
河川を管理する規制の緩和で、水辺のポテンシャルが一気に加速してきたみたい。

すでに元気な水辺の都市もあるけれど、
まだまだ水辺をとりいれてワクワクできる環境づくり、まちづくりはできるはず。

そこでミズベリング・プロジェクト、開始。
ミズベリング(MIZBERING)とは「水辺+リング(輪)」の造語であると同時に常に現在進行形"ING"の気持ちで、水辺とまちが一体になった美しい景観を未来へ創造しつづけるソーシャル・アクションワード。

みんなのアイデアとアクションが集まれば、日本の水辺は、
きっと世界がうらやましくて素敵なおちになるはずだ。

ミズベリング・プロジェクト事務局

mizbering.jp

ミズベリングの先進事例に学べ

1

「水都大阪」

「水都大阪」という、「水の都」としての大阪を復活させるプロジェクトをご存じだろうか？ 2011年から2020年までの長期プロジェクトで、「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を掲げ、関西全体を元気にする「大阪の都市力の向上」を目標にしている。構想策定から10年間、水と光のまちづくりの取り組みを推進するにあたり、市民・地域・NPO・行政等との連携をさらに強化。オール大阪で水辺の利用促進に励んでいる。



© 千鳥土地株式会社

2

「水の都ひろしま」

広島市はまちの中心部を6本の川が流れている「水の都」。その恵まれた水辺を都市づくりに活かすべく、戦後間もない頃から水辺を緑地として整備してきた。今では延長25kmもの緑豊かな河岸緑地となり、美しい水辺が形成されている。水辺をもっと市民に使ってもらうため、市民と国・県・市の協働で「水の都ひろしま」構想(2003年)を策定。「水辺のオープンカフェ」や「水辺のコンサート」を開催、水辺での市民活動の促進、水上交通の活性化の推進などを行い、河川空間における市民や民間事業者の多様な活用が進んでいる。



水辺のアクションをみんなで起こせば、
日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

1 つなごう

「水辺の未来」を考える人が
つながれば、大きなムーブメントが
始まるはずだ。

2 かたろう

「水辺の可能性」をみんなで掘れば、
思いも寄らないアイデアが
浮かぶはずだ。

3 ためそう

「水辺でのチャレンジ」が湧いていけば、
世の中はもっと水辺に
注目するはずだ。

4 つくろう

「水辺を通じたまちづくり」が進めば、
日本のまちは世界がうらやまに
なるはずだ。

5 育てよう

「水辺での暮らし」をみんなで
育てていけば、人生はもっと
豊かになるはずだ。